

第38回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2019年12月5日(木)～8日(日) 於：岩手県民会館・展示室
表彰式 2019年12月8日(日)午後12時30分～

<<絵画の部>> 出展数 63点

たねくら のりあき
審査員：種倉 紀昭 氏

賞	氏名	作品名	作品評
岩手県 知事賞	高橋 邦枝	生生 (大津波が全てを呑んだ・しかし今)	幻想的なアザミに羽根を安める黄アゲハとその周辺の風景。生命の再生への思いが伝わってくる。
優秀賞	佐藤 英子	2019-「時」	文明的なものと心理的な自我との断絶・相克をテーマにしていると思われる。その不協和音的表現が力強い。
奨励賞	巢鴨 尋子	共 棲 (タプローム寺院と巨木) アンコールワット	多くの画家がこの巨木と共棲する風景を描いてきた。色彩の重なりが重厚で素晴らしい。
奨励賞	荒井 賢二	ひまわり	SLの走る様子を周辺のたたずまいとモクモクと出す煙と一緒に描いている。
佳 作	浅利 文子	奥州から ブラックホールへ	発達した電波テクノロジーを使ってブラックホールの解明に挑む天文台。その様子を時空を超えたものとして表現している。
佳 作	菅原 東一郎	さんさ、たのしいな!	荒々しい筆のタッチの中に、踊る人々の躍動感が的確に表れている。
佳 作	中村 友美	Seventeen	娘さんのユカタ姿の思い出のシーンを丁寧に描いている。色彩の塗り重ねと細部描写が良い。
佳 作	伊藤 勇	なごり雪	日常、おそらく見慣れておられる風景を、絵を描く視点で見直すと気付かなかったことに感動する。その思いが出ている。
審査員 特別賞	大須賀 美智子	そろそろおやつかな?	三輪車に乗った男児がこちらに向かって来る。平和な家庭のひとコマを構成的に描いて、色彩も美しい。

総 評

出品作の多くは、日常の思いや出会った出来事、風景、静物、外国の風景を絵にして描かれている。その平凡で、時に衝撃的な画面に驚かされたり、安堵感を感じました。

佳作を選ぶ段階で、かなり選考に迷いました。いずれも良い作品ばかりです。

第38回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2019年12月5日(木)～8日(日) 於：岩手県民会館・展示室
表彰式 2019年12月8日(日)午後12時30分～

<<写真の部>> 出展数 92点

審査員：小川^{おがわ} 文男^{ふみお}氏

賞	氏名	作品名	作品評
岩手県知事賞	福盛田 弘	刹那の輝き	光を読む眼力がよく、風景の基礎がしっかり出来ている。
優秀賞	古谷 広太郎	ナイス・キャッチ	岩手山を背景に、フリスビーが実によく決まっている目線が良い。
奨励賞	平 宏之進	陽のあたる坂道	逆光を上手に利用して立体的風景に仕上げた。
奨励賞	君塚 みつ子	山野を駆け廻る	女性の写真とは見えぬ迫力満点。これからの期待が持てる。
奨励賞	福盛田 美奈子	夢 幻	雲海のすき間下界をのぞかせたセンスが良い。
佳 作	小野寺 幹男	酷暑の秋祭り	秋に酷暑が面白い。
佳 作	及川 茂輝	初めての体験	三人の笑顔が文句なく良かった。アップ良し。
佳 作	照井 俊男	飛び込み	人体がシルエットでかえって迫力が出了た。アップが良かった。
佳 作	平館 徹	魅せられて	写真が実物でそこに居るような感じがする。
佳 作	山田 恵子	いっせいのーで!!	それぞれの形がちぐはぐが、かえって面白い。
親子ふれあい賞	伊藤 憲子	「ああんして!？」	人間が生きていくとゆう本能が感じられる。
親子ふれあい賞	岩城 茂孝	ボールすくいの親子	スナップの上手な人は、いつみてもポイントを上手につかんでいる。
親子ふれあい賞	千田 久	微笑み返し!	子供の顔は正直で良い。
審査員特別賞	中川 亮	盆	舟っこ流しは沢山観ているが、一味異なった。激しく燃えていた。

総 評

最近これ程、迷った審査はなかった。ネイチャーもスナップも揃って出来が良かった。賞があと5点多ければあげたい作品があった。

第38回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2019年12月5日(木)～8日(日) 於：岩手県民会館・展示室
表彰式 2019年12月8日(日)午後12時30分～

<<書道の部>> 出展数27点

審査員：吉田^{よしだ} 晨風^{しんふう}氏

賞	氏名	作品名	作品評
岩手県 知事賞	片方 正明	高青邱詩	文字の大小に明清時代の連綿をくみこみ、筆がよく活躍している。墨の使い方、行の振幅に秀でたものを感じる。
優秀賞	中村 梨絵 (珠寶)	白楽天詩	4行の多字数作品。行間の白を美しく見せ、筆触を多様に表現し、こぎみよいリズム感が伝わる作。
奨励賞	松江 邦雄	甲骨文「蘭亭序」	彫り、箔の置き方から篆書の文字まできめ細かい配慮がみられる労作。
佳作	石井 ゆかり (縁)	陸游詩	力強い線の行書で、丹念に書かれた好感のもてる作。字形の工夫と、作品全体のまとめ方に独自のものがみられる。
佳作	田之岡 由美子 (青桂)	高詠詩	丁寧な書きぶりで、作品がよくまとめられている。
佳作	鈴木 里美 (青穹)	虚往実歸	文字の空間への響きがすばらしく、余白の使い方によく気持ちが行き届いている規模の大きい作。
審査員 特別賞	小岩 佳代 (萌春)	かきくもり	5幅を通す一貫した運筆に力量をみせる。行と行との間のとり方がすばらしい。

総評

2×8尺の大きな作品も増え、充実した作品が多かった。普段取り組む作から挑戦する気持ちでの作品もあり、この美術展の意図が伝わっていると感じることもあった。気軽に自分の作品を発表できるような美術展としてさらに多くの方が関わっていけるよう期待したい。

第38回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2019年12月5日(木)～8日(日) 於：岩手県民会館・展示室

表彰式 2019年12月8日(日)午後12時30分～

<<その他(切り絵)>> 出展数 21点

審査員：種倉^{たねくら}紀昭^{のりあき}氏

賞	氏名	作品名	作品評
特別賞	阿部 正介	西馬音内・舞	技術的にかなり難しいことをされていると思います。編笠や人物の踊る動勢感が素晴らしい。

総評

皆さんの切り絵には感嘆するばかりです。

私は、切り絵の専門外の人間です。賞が一つしかないので、大変迷いました。

結局、私の独断で、単色で動きの最も感じられる大き目の作品ということです。